

上田 勉

猛暑と大雨、暑中お見舞い申し上げます。檜葉町は昼は暑いですが、夜は涼しいです。朝は、ウグイスとセミの鳴き声で、起こされてしまいます。檜葉町はまるで、「福島の軽井沢」です。

町民が待ちに待った商業施設 「ここなら笑店街」がオープン

6月26日、町民が待ちに待った商業施設「ここなら笑店街」がオープンしました。地元のスーパー、こめり、昼定食・夜飲み屋、豚丼店、ラーメン店、喫茶、理髪店等が入ります。

檜葉町には、これまでは仮設商店街（ミニスーパーと食堂2軒）とコンビニが2軒、居酒屋が2件しか店はありませんでした。私は買い物は、富岡町のヨークベニマル（車で15分）、広野町のイオン（車で20分）に行っていました。こちらに来て2年と3カ月、良く生きられたものだと、痛感しています。

私はスーパーには、閉店30分前に行きます。弁当や惣菜が半額です。ついよけいな物にも手が出てしまいます。貧乏根性はどうしようもありません。そして、50%の割合で、買いたい物が売り切れていることも多いです。

「ここなら笑店街」に入ってもらいたい店として、子ども達に意見を聴いたところ、100円ショップと本屋の希望がありました。本を買うためには、いわきまで行かなければなりません（車で1時間）。私は、本をアマゾンに頼む機会が増えました。本屋で、思いもよらなかった本と遭遇する、あの心のときめきが懐かしいです。

町民が待ちに待った交流施設 「ならはキャンパス」がオープン

7月30日、町民が待ちに待った交流施設「ならはキャンパス」がオープンしました。ここなら笑店街と同じ敷地です。「ならはキャンパス」は、町民どうしが交流する場です。ここに来れば、誰かと会えるという施設です。私は、ほとんど知っている人がいないので、寂しいです。

「ならはキャンパス」の開設まで、町民の有志が集まって、8回に渡ってワークショップを行いました。町民の自治によって、多くの意見が採用されました。中には、多目的室やミニホールがあります。残念ながら、図書室はありません。長い机と椅子があって、WiFiが繋がります。私の部屋には、クーラーがありません。そうだ、「ならはキャンパス」に涼みに行こう。夜9時まで開いています。今度は、「双葉通信」も「ならはキャンパス」で書くことを思いつきました。

3・11後 檜葉町はコンパクト・タウンを計画

檜葉町は、3・11の後、コンパクトタウンを計画しました。帰還しない町民もいて、将来はより人口が減少するために、1カ所に施設を集めました。災害公営住宅・造成した土地の分譲・復興診療所・子ども園・商業施設・交流施設が1カ所に集められました。「分譲住宅が売れ残ったら、上田さん買わないか」と言われました。ちな

みに土地代は、1区画 100坪（330㎡）で約400万円です。

【弁当等が半額になる閉店30分前に行く「ここなら笑店街」(檜葉町)】



【夜9時まで冷房が効いている 町民の憩いの場「ならはキャンパス (檜葉町)】

